

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子 選

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 軽舟 選

思ひ出に声の蹟く卒業歌

東京 福島 照子

△評▽卒業式の歌を歌いながら思
い出がよみがえり、声が詰まって
しまった。素晴らしい学生生活だ
ったことを季語が語っている。

古ひひな父はいつでも両成敗

尾道市 山口 恭子

△評▽季語から幼い頃の思い出へ
の飛躍が自然だ。お父さんの教育
方針まで語られている。

恋猫は眠らず吾は眠られず

岸和田市 妙中 正

春耕や曲がったままの指の先

愛知 高橋 一枝

消えさうで消えずに暮るる薄氷

茅ヶ崎市 古田 哲弥

春雪のはなから積もるつもりなし

鎌ヶ谷市 海野 公生

にこやかに春泥を来る獣医かな

浜松市 久野 茂樹

安曇野の雪解水ゆく雲のゆく

三重 瀬川 令子

御仏の吐息に溶ける薄氷

紀の川市 中島 走吟

城門の門堅し梅いまだ

秦野市 窪田 薫

卒業の朝農場の土を踏む

神戸市 松元 一師

△評▽農業高校だろうが、卒業の
日、農場に立って学生生活を振り
返り、未来を望む。踏みしめた土
の柔らかい感触が快い。

雪折の一枝は湖に浸かりけり

和歌山 神野 一馬

△評▽湖畔の樹木が雪の重みで折
れ、一本の枝が湖に浸かっている。
美しく無残な光景である。

冬の蔵開けは闇の溢れ出づ

弥富市 富田 範保

傷深き負傷を抱き運ぶ

名古屋 市 可知 豊親

臘夜の木の幹濡れてゐるかな

直方市 岩野 伸子

猫の恋慕の匂ひをまとうて来

仙台市 引地 恵一

面影に釣りの龍太を雪解谷

富士市 後藤 秋邑

春風や絵地図の端の現在地

平塚市 高橋 佳代

房総や牛の列見る春の靴

市川市 高野 厚夫

亡き父の紺の背広や伊勢参り

大阪市 吉田 昌之

立春やコーンスープに銀の匙

名古屋 市 平田 秀

△評▽いつも同じスプーンなの
かもしれないが、今日から春と思
うといっそう輝いて見える。コー
ンスープがおいしそうだ。

葱抱きて錦市場に人駈す

佐世保市 相川 正敏

△評▽京の台所ともいわれる錦市
場。すれ違う人とぶつかりそうな
混雑ぶりに活気がある。

春の朝玉子サンドのよくてきて

香芝市 山本 合一

青空に鷹を放てる春田かな

北九州市 宮上 博文

一片の雲遠ざかり桃の花

土岐市 水野 雅子

思ひきり高くつきたる紙風船

川口市 高橋さだ子

読まずともわかる返書や薄氷

東京 石川 黎

一斉に駆け出す子らや春立ちぬ

尾張旭市 小野 薫

春耕や光の粒を鋤き込みて

常陸太田市 館 健一郎

名ばかりの春よ医院のドア重し

北九州市 土師 光子

蜆汁人あるところ人事あり

千葉市 木村 史子

△評▽社会をなす限り、人には人
事がつきまとう。卑近なところで
は会社の人事。しじみ汁の取り合
わせに味がある。

突然に終わりの介護落椿

横浜 市 田中 清春

△評▽介護の相手が急になくなっ
たのか。美しいまぼとりと落ち
たツバキの花がせつない。

春寒しましたちがふ霊柩車

つくば市 村越 陽一

デモ隊の掲げし正義チューリップ

ドイツ 広谷 朝子

ビル風の吹き抜けし闇春寒し

神戸市 松元 一師

春寒し亀戸までの定期船

桶川市 戸室 和博

庭先の竿に切干高野道

和歌山 馬谷富貴子

古書店のカレーの匂い返る

土浦市 今泉 準一

農道のヘッドライトに馳の目

真岡市 小川 充

行く末を考えながら芝を焼く

岡山市 橋本 幹夫

季語と遊ぶ 高田正子

「冴返る」「余寒」は立春を過ぎてから
冬の寒さが戻ることを。この言葉の存在は
季節のめぐりが昔からそういうものだっ
たという証しだが、今年は暖冬であつた
せいかたまし討ちにあつた気分である。
そこで季語「暖か」について考えてみ
ることにした。暖房の暖かさではないの
で、気温が上がってくれないと体感はで
きない。こういうときには俳句を読むと
いう疑似体験に限る。
あたたかや布巾にふの字ふつくらと
文字の形まで暖かそう。その上、ふき
ん、ふの字、ふつくらと「ふ」の音を重
ね、暖かさを呼び込んでいる。
布つながりのこんな句も見つけた。
ハンケチに一日の皺夕桜
小川軽舟
「一日の皺」は単にしくくちやなだけ
でなく、充足感でもあろう。花見の一日
であれば、夕方には花疲れで手足が温か
くなってもいそう。暖か」の語は無
いが、どことなくぬるい夕風を感じる。
母の耳父の耳よりあたたかし
田中裕明
夫妻の長女が幼いころ、母の耳に触れ
ながら眠ったのだそう。父の耳ではだ
めなのか、と羨む句だ。単に温かいとい
うのではなく、幼子が暖かな心持ちで寝
入っているということなのだろう。「暖
か」は時候の季語だが、こつとした心理的
な使い方もできる。
つかの間季語と遊ぶと気持ち切り換
えて次へ進める。あなたもいかが？
(たかた・まさこ) 俳人
「出会ひの季語」は今回で終わります。